

2016年10月27日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人サポートクラブあすなろ
代表者・役職名 氏名 理事長 鈴木 操

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

社会科見学 (リフトバスに乗って 日帰り旅行)

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1980年小平肢体不自由児者父母の会児童部が公民館などで放課後活動を始める。保護者の情報交換や当事者間の交流を目的とし、2010年NPO法人となり会員30名の法内事業を始める。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

普段の異年齢児交流、集団活動の一環として 年1回の保護者付き添いのないバス旅行を行う。目的地の事前学習も含め、子ども達と一緒に考え またいろいろな介助者にも慣れ違う場所でも食事、排泄等の生活ができるようにする。その小さな繰り返し自立につながるきっかけとなると期待する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

移動時間2時間を限度とし、利用者一人ずつのサポーターがつき 食事、排泄等の介助を受けながら 施設の中で楽しい1日を過ごす。往復はリフト付きのバスを使い、乗降の負担を少なくし 現地では友達同士の交流や館内の展示、体験を味わい 思い出をつくる。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

予想を超える参加者(16名)があり 計3台の車に分乗し天気や交通状況にも恵まれ順調に実施出来ました。内容的に「日本科学未来館」ということで難しいイメージを持っていましたが、バリアフリーの館内は移動しやすくトイレも清潔で設備もよく快適に過ごせました。ロボットのアシモくんのショーでは前列に観客の方々が譲ってくれたり、実験コーナーでも発光したり動いたりするものには興味を示していました。外人の方とのコミュニケーションもあり、館スタッフの方も対応がとても親切でした。その後通常の活動で創作としてアシモをつくることもしました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

介助者が1対1につくのは必須でしかも看護師、作業療法士など有資格者を集めることや ボランティアの集め方にも課題が大きい。またその人件費にも費用がかかり、出来るだけ施設入場料のかからないバリアフリーの充実した目的地選びにも苦勞している。しかし今回のように内容が難しそうでも、それなりに楽しめ、興味も持てることもあるので、先入観を持たずに選んでいきたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

